

## 第三者評価結果

事業所名：にじいろ保育園二子新地

### A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
A-1-(1)-① 【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	a

<コメント>

・保育所の理念や方針は玄関やクラス・トイレなど、園内各所に目につく場所に掲示するよう心がけ、職員も保護者も意識できるようにしている。  
 ・全体的な計画は3年間の中長期計画を本部から園に配信し、園では年度始めに中長期計画をもとに1年間の年間保育計画を作成している。作成にあたっては保育理念・方針・保育目標を土台とし、地域の実態に対応した保育事業と行事への参加、地域との関わりなどを考慮しながら作成している。また、保護者アンケートの意見や職員の意見を職員会議（パート職員も含む）で取り入れ、職員全員で読み合わせを行うことで確認と共有を図っている。  
 ・作成した年間指導計画から、クラスの年間計画、月間指導計画、および週間指導計画へと落とし込んでいる。

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
A-1-(2)-① 【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a

<コメント>

・保育室内は夏は28度、冬は20度と湿度を40～60パーセントに設定し、エアコンや加湿器を使って設定値になるようにして常に適切な状態に保持するよう努めている。夏は西日が強いので、ウッドデッキ側の窓や事務所玄関に遮光スクリーンをかけて陽ざしを遮る工夫をしている。  
 ・敷き布団は年2回業者による乾燥を行い、上掛けやシーツは毎週末に洗濯して衛生管理を行っている。手洗いは子どもが使いやすいように泡ソープにし、ペーパータオルを使用して衛生管理に努め、トイレ掃除は1日に2回行き清潔に心がけている。  
 ・保育室内は子どもの状態に合わせて稼働棚で簡単に場所を区切り、活動しやすいよう取り組んでいる。また、家具や玩具も子どもの成長や動きに合わせて設定場所を変えて保育を行っている。園内外の設備は定期的に安全チェックシートで点検して安全管理に努めている。

A-1-(2)-② 【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
---	---

<コメント>

・発達に合わせた計画の作成に努め、1、2歳児は月ごとに個別計画を立てて特に一人ひとりの個人差にも配慮している。年度始めに園の保育として子どもの気持ちの受け止め方や言葉の使い方について具体的に文章化したものを職員で読み合わせを行うことで確認と共通理解を図っている。また、園内研修として保育ガイドを使って人権や虐待などについて学ぶ機会を設けている。  
 ・日々の保育の中で泣いたり気になる行動をとる子どもがいる時は、場所を変えて1対1で対応して子どもの気持ちを理解して援助するよう努めている。子どもが話をしにくそうにしている時は気持ちが落ち着くまで待ち、自分から話し出すまで待つことを大切にしている。  
 ・乳児会議や幼児会議・職員会議で子どもの様子を共有し多面から子どもを理解するようにしている。毎日の昼の打合せでは子どもの状態や喫食状況などを報告し担任だけでなく全職員が共有して保育するようにしている。

A-1-(2)-③ 【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。	b
---	---

<コメント>

・子どもが自由に遊びを選べるような環境の中、その遊びを通して基本的な生活習慣や必要なことが身につくよう援助をしている。異年齢で生活しているので年上児が行う姿を見て年下児は真似をしたり、教えてもらったりして自然に身につくようになっていく。  
 ・乳児の着脱などは自分でやりたいという気持ちが出るまで待つというように、できるようになってもやってという時は、理由を聞きながら50%くらいの手伝いをするので次につながるようになっている。おむつ替えも子どもの気持ちを聞いて行うようにして子どもが達成感を感じてまたやってみようと思うような援助を心がけている。  
 ・部屋はパーテーションで区切り活動の場と休息の場など活動が保障されるよう取り組んでいる。整理整頓に関してはさらに職員間で声かけなどをして充実させることが望まれる。

<p>【A5】 A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の持ち物を置く場所に名前とマークを付け、文字がわからなくても自分で出し入れなどができるようにしている。部屋の玩具は子どもが自分で遊び遊べるように配置し、各クラスにはCDデッキを置き子どもの要望で体操やダンスなどをして身体を動かせるようにしている。また、室内用の鉄棒やマットを用意いつでも使えるようにしている。</li> <li>・年度始めに散歩マニュアルや散歩マップの見直しや作成を行い、安全に散歩ができるよう事故防止に努めている。散歩はなるべく子どもの意見を聞いて自然のある場所を選び、遊びのきっかけは職員が作る時もあるが慣れてきたら見守り、子ども同士で遊べるように心がけている。遊びも子どもの発案を大切に、遊びのルールも子ども同士で決めるようにしている。幼児は当番活動やグループ活動で役割分担を決めて活動している。</li> <li>・散歩の時にあった人とは挨拶をし、交通ルールを守って歩くなどの社会的ルールは生活の中でその都度知らせるよう実践している。</li> </ul>	
<p>【A6】 A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	c
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・0歳児の受け入れは現在行っていない。</li> </ul>	
<p>【A7】 A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの気持ちを尊重して自分でやろうとしているときは見守りながら関わることにしている。必要に応じて子どもが助けを求めた時などは、その時に合った援助を行うよう心がけている。</li> <li>・危険な場所にはパーテーションをするなどして入らないように配慮し、他は自由にできるよう広い場所を確保して活動できる環境を整備している。</li> <li>・子どもの嫌だという思いには寄り添い、言葉にできない思いは職員が言葉に表して安心感を感じられるようにしている。また、遊び方がわからないような子どもには一緒に遊びに入ったり、いろいろな遊びを紹介したりして自発的な活動ができるよう援助している。</li> <li>・子ども同士でトラブルが起きた時は様子を見守り、お互いの気持ちが表現できずに伝わらない場合などは職員が間に入って代弁し仲立ちするようにしている。</li> </ul>	
<p>【A8】 A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3、4、5歳児は同じ部屋で生活しており、3歳児が年度初めに幼児の部屋に移った時は3歳児だけで生活する時間を多くするなど生活に慣れるよう状況を見ながら保育を行っている。また、4、5歳児は3歳児が入ったことでそれぞれ進級したことを自覚し、見本となる行動を心がけたり、遊びの発案やまとめなど中心役となるような関りをもつ機会となっている。</li> <li>・運動会や生活発表会などの行事を通して子どもたちの日々の活動ややりたいことなど子どもの意見を中心に取り入れることで、楽しみながら計画を立てて一つのことをやり遂げる機会を設けている。生活発表会では、劇や合唱で友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった達成感を感じることができるよう職員が関わっている。</li> <li>・毎日の活動は、ドキュメンテーションを制作して園の入口に掲示することで保護者に伝えるなど、保育の見える化にも取り組んでいる。</li> </ul>	
<p>【A9】 A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な配慮が必要な子どもの保育にあたっては、個別の計画を立て個別の日誌を付けるとともに定期的に職員全員で話し合い意識を統一して保育を行っている。</li> <li>・集団活動が苦手な子どもには無理強いはせずに、職員と一緒に見たり「やってみたら楽しいよ。」などの声かけや、個別の活動をしつつ、子どもが自分から参加するまで寄り添い援助している。</li> <li>・手作りで落ち着けるパーソナルスペースを作り、子どもが行きたいときにはいつでもそこで過ごし、職員は子どもを視野に入れながら落ち着くまで見守り援助している。</li> <li>・保護者には送迎時に声かけをするとともに、専門機関の案内をするなどの取り組みを行っている。また、コロナ禍でできていなかった臨床心理士の園訪問を再開し、助言やアドバイスを日々の保育に活かせるよう体制作りにも努めている。</li> </ul>	

<p>【A10】 A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・午前中活発な活動をした時は午後はゆっくりと過ごしたり、午前中制作などの落ち着いた活動の時は午後は外に出るなど、一日の保育にも変化のある計画を立てるようにしている。部屋で過ごす時は机上で遊ぶおもちゃやゲームを用意し、ままごとをするときはごさを敷くなど工夫してゆったり過ごせるようにしている。</li> <li>・毎日の屋の打合せでは各クラスの子どもの様子を伝えて職員間で共有し、子どもが安心して過ごせるよう周知を図っている。</li> <li>・18時01分以降に手作りの補食を提供している。月決めの子どもは全員、単発の子どもには保護者の希望に沿って提供している。また急な延長保育も受け入れ保護者の支援に努めている。</li> <li>・延長保育の子どもの過ごし方が固定化しないよう考慮し、さらに一人ひとりの子どもの過ごし方や保育を考えることが望まれる。</li> </ul>	
<p>【A11】 A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の保育の中で小学校の様子や生活スタイルを伝え、子どもが自然に意識ができるようにしている。また、時計に5分刻みに目印をつけたり、生活の中で食事の時間など、時間を意識する工夫をしている。</li> <li>・午睡の時間を短くしていき、年明けを基本に午睡をなくしているが、その時の子どもの状況に合わせて進め活動によってはいつでも休息ができるように配慮している。</li> <li>・保護者には卒園児の保護者からの情報や、学童保育の案内のパンフレットを玄関先に置くなどして情報提供をしている。要録は担任が記入し園長と内容を確認し、届けられるところは園長が届けて子どもの様子を伝える機会を設けている。</li> <li>・昨年は区取組みとしてリモート交流会や公園で短時間の交流会をすることで園以外の子どもの関わりを持つ機会を設けた。今後も地域支援の関係者と話をするなど、地域の小規模園と連携を取り、関わりを持てることを目指している。</li> </ul>	
<p>A-1-(3) 健康管理</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症が発生した場合には保健衛生ガイドにのっとり初期症状を掲示して保護者に知らせるとともに注意喚起を促している。</li> <li>・登園時には子どもの体温をその場で測り、保護者と確認をして健康状態や子どもの様子を聞きとり連絡ボードに記入し、その日の保育の参考にしている。また、毎日屋の打合せで健康状態も報告し職員全体で共有している。</li> <li>・保育中に熱が上がった時は緊急連絡簿登録番号に連絡をするとともに、事務所のベッドで休ませるなどして見守りをしている。また、次に登園した時は事後を確認し連絡簿に記入して様子を見ることとしている。</li> <li>・1歳児10分・2歳児15分・3歳以上児は30分毎にSIDS(乳幼児突然死症候群)チェックを行い、チェック表に記入し、うつ伏せにならないようにしている。1歳児は直した体制も記入し、各クラスにSIDSチェックマニュアルを掲示している。午睡時はカーテンはレースだけに子ども顔が見えるようにして事故防止に努めている。</li> </ul>	
<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断や歯科健診を定期的に行っている。年1回の歯科健診は歯科健康診断票に記入し、保護者には健康の記録で知らせることで共有を図っている。検診で治療が必要な場合には保護者に直接口頭で伝えて治療を促している。</li> <li>・1、2歳児はおやつや給食の後お茶を飲み、3歳児以上は給食の後に毎日歯磨きをして虫歯予防に努めている。歯磨きの時は職員が子どもたちの前に座り、一緒に歯磨きをして指導している。今年度は業者による歯磨き指導を開催する予定もあり、保護者にも寝る前の歯磨きを行うよう伝えるなど家庭とも連携して虫歯予防に取り組んでいる。</li> <li>・毎月の園だよりや保健だよりで検診について伝えているが、今後は検診前に保護者の質問や医師に伝えたいことを聞き取り、さらに子どもの健康管理や向上に繋げることを目指している。</li> </ul>	
<p>【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギーや疾患のある子どもは入園前に栄養士と面談を行い聞き取りをするとともに、健康管理委員会からの対応の指示に従い安全に配慮して食事の提供をしている。</li> <li>・給食室ではアレルギーの有無・献立の確認を前日、当日の朝行っている。提供する時はアレルギー児には色のついた食器を使いトレーに乗せ他の子どもたちにもわかるようにし、食事の受け渡し時は担当職員と栄養士で何が除去なのかチェック表、給食を見ながらチェックを行うことで事故防止に努めている。</li> <li>・毎月アレルギー児の献立を作成し保護者、園長、担任、栄養士で面談を行い、保護者が署名押印することで確認している。また、個別のファイルを作り追跡調査ができるようにしている。</li> <li>・栄養士が栄養士会、研修などで得た情報は職員会議で報告し共有することで知識の向上や支援につなげている。</li> </ul>	

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
<p>【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間食育計画を作成し、年齢に合わせて食育を行い定期的に振り返ることで次につなげている。クラス別に季節の野菜の栽培や、食材を見て触れてにおうなど五感を使って食に興味を持つよう取り組んでいる。</li> <li>・食事は6人用の机に3人と間隔をとり、椅子に座って食事をしている。乳児は職員が子どものそばで食事の援助をして安心して食事ができるように見守っており、幼児は職員が子どもと一緒に食事をして一人ひとりに食事指導やマナーなどを教える機会にもなっている。</li> <li>・毎日職員間で喫食状況を報告し、月1回の給食会議では食べ残しの多い物はどのようにしたら良いかなど献立について検討し次につなげるようにしている。献立は月に2回同じ物を提供し、食になれ食べられるように工夫している。</li> </ul>	
<p>【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月身長と体重を計測して栄養士はそれをもとにカロリー計算をし献立を立て子どもの成長につなげるようにしている。子どもの好き嫌いや食べる量は毎日の昼の打合せで給食、おやつと細かく喫食状況の報告をして、栄養士も時々クラスに入り食事の状況を見るなどして把握に努めている。</li> <li>・季節感のあるものとなるよう園の行事の時は行事食を提供し、その月の代表的な食材を取り入れ季節を感じられるようにしている。また、提供するときには行事の説明をして文化を伝える機会としている。</li> <li>・クッキングや食材を見せ、三色群指導、給食時間などできる限り栄養士と調理師は交代でクラスに入り子どもたちの話を聞いたり様子をみる機会を作っている。給食やおやつの下膳の際、時々子どもも同行し栄養士と話をする機会を設けている。</li> <li>・調理室ではマニュアルにもとづき点検事項を記入し確認を行うとともに気づいたことは給食日誌に記入して共有し衛生管理に努めている。</li> </ul>	



## A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
<p>【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。</p>	a
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの様子はナナボケを使って保護者に伝えている。1、2歳児は連絡帳を毎日やり取りすることで、家庭と情報共有できるように取り組んでいる。3歳児以上は一日の様子や連絡事項を玄関に掲示して伝えるとともに、降園時に口頭でその日の子どもの様子を伝えるようにしている。</li> <li>・毎月園だより・クラスだより・給食だよりなどを発行して園での活動の様子を伝えるとともに行事や定期健診の案内、季節による病気などの注意喚起を行っている。また、保護者会を通して園の保育内容の説明をして、保護者からの意見を聞いて保育の質の向上に努めている。</li> <li>・家庭の状況、保護者の情報は昼の打合せで口頭で報告するとともに、連絡ボードに記入して全体共有を図り保育や支援につなげるよう取り組んでいる。</li> </ul>	

A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
<p>【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。</p>	b
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の受け入れはなるべく同じ職員が受け入れ、降園時は園長がいるようにして保護者や子どもが安心できるようにしている。帰りの連絡事項は担任が不在だとしても誰でもわかるように連絡ボードに記入して、口頭で保護者に伝えている。</li> <li>・保護者との会話を大切に、普段から子どもの様子は口頭で保護者に伝え相談しやすいように配慮している。また、園長は降園時玄関で保護者を迎えたり送るなどして、1日に一度は顔を合わせ気軽に相談しやすい雰囲気作りに努めている。</li> <li>・延長保育や早お迎えなど保護者の要望を受け入れ、突然の延長保育や土曜保育は連絡を受けるとすぐに職員全体に知らせて受け入れ体制を整えるよう取り組んでいる。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、送迎時には保護者は保育室まで入れず、園での子どもたちの姿が見えにくい。子どもの様子を口頭で伝えるようにしているが、さらなる連携が望まれる。</li> </ul>	

<p>【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。</p>	a
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け入れ時は保護者に子どもの様子や体調について口頭で確認を取り、連絡表に記入し職員全体で共有して保育を行っている。また、1日に1回は全員着替えているので、その時に身体的外傷が無いかわ職員が一人ひとりの子どもの体を確認し、気になることがあった場合は全体共有して保護者にも確認をしている。</li> <li>・虐待の可能性があると感じた場合は園長が保護者と対話をして聞きとりを行うとともに、場合によってはケース会議を開いて園全体で見守りや対応に努めている。</li> <li>・虐待については保育ガイドで園内研修にて学習し、休憩室には虐待チェック表を貼りいつでも確認できるようにしている。権利については冊子を事務所に置き、いつでも誰でも見て確認できるようにしている。児童相談所の電話番号や虐待を発見した時の対応フローを貼りだし、それに沿ってすぐに対応できるように周知を図っている。</li> </ul>	

## A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
<p>【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。</p>	b
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育日誌に日々と週の自己評価を行い月案は毎月、年間計画は4期に分けて自己評価を行い職員会議で発表し、質疑応答の時間を設けることで互いの学び合いや意識の向上につなげている。また、園全体としては園の自己評価を年度末に行い、保育の向上に努めているが、今後はキャリアアップ研修や個々の学習を通してさらに活発な意見が出せるよう充実させることが望まれる。</li> <li>・保育の評価にあたっては、目に見える成果だけではなく、子ども一人ひとりの心や意欲などにも焦点を当ててそれぞれの課程にも注視して行うようにしている。</li> <li>・年間研修計画を策定し社内研修を実施するとともに、外部の研修に参加した時は、研修内容を職員会議で伝え資料はファイルしていつでも閲覧できるようにしている。研修に対しては職員が意欲を持ってさらに充実させることが望まれる。</li> </ul>	